

03 空き家対策・移住促進

氷川町に住みたい人の気持ちに応える

空き家は増える一方で、家を探す人のニーズに応えきれていない現状があります。移住を促進していくためにも現在、町が取り組む空き家対策を改めて考え直します。

04 道の駅電北活性化

町の魅力発信拠点 目指すのはもっと安定したサービス

多くの氷川町産品が揃い、好立地にあり集客力もある道の駅。実際のお客さんの声から改善点を見つめ、今以上に満足度の高い道の駅を目指します。

05 新規就農

課題を逆手にとり就農の高いハードルを下げる

農地や機械の確保など初期コストが大きな負担となる新規就農。一方農業後継者不足や荒廃農地の問題も。双方の課題解決につながる新しい就農支援を提案します。

06 子育て

育児の時短を応援する子育てで選ばれる町へ

共働きの夫婦が増え、多くの人が時間に追われて子育てをしている現在。すでにある多くの子育て支援施策がさらに子育ての負担・不安軽減につながるような取り組みを目指します。

07 公共施設有効活用

施設×町の魅力で新たな町の顔を作る

人が集うとワクワクする。活気が生まれる。町に住む人も町外からも人が集う場づくりのため、町でこんなことができればいいのを実現するために、既存の施設を活用します。



ここに挙げた7つの具体的な課題解決の提案をぜひ町のホームページからご覧ください。QRコードから確認できます。



課題を掘り下げ、氷川町の「理想の未来」を探した半年間

このプロジェクトには、課長職未満の役場職員から35人が参加。取り組む課題についても、全職員から募集した町が取り組むべき課題の中から特に優先度が高い7つに絞りました。

所属する課もこれまでの経験年数も違う職員たちは、自分の業務の合間の時間を使い、地域活性化包括連携協定を結ぶ株式会社博報堂プロダクツの協力を得ながら、半年間かけて課題と向き合い、提案を作り上げました。

大切にしたのは「理想の姿を描くこと」でした。皆で話し合い、その理想を言葉にしたのが『多様な自由を家族で実現できる町』。ただ通り一遍の解決策ではなく、

その姿のため今の氷川町にあったらいいな、こうなって欲しいなを形にする提案を目指しました。

昨年10月には、町長をはじめとする町幹部にプレゼンテーションという形で作り上げた提案に込めた思いを直接伝えました。

ここでは、職員が行った提案の概要を紹介します。また、実際のプレゼンテーションの資料の抜粋版を町ホームページに掲載しています。現時点では「提案段階」のため、今後実際に事業として進んでいくものもあれば、実施は難しいと判断されるものも出てきますが、職員が描いた提案をぜひご覧ください。

01 情報発信・PR強化

これからは「住み続けたい」「移住したい」を促す情報発信を

ただ情報を伝えるのではなく、町のホームページにたどり着いた人の「行動」を促すホームページを、現状の分析を通して考えます。



02 事業承継・新規起業

やりたかった仕事をここで実現させるために

事業者の廃業は地域経済の衰退につながります。ソフト面とハード面で承継・起業のサポートをしながら、新たに人が訪れる仕掛けをつくります。

